FUREAI NEWS

アクアリウムさがみはら情報誌

Vol.02

相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

感謝と感動

平成26年3月26日のリニューアルオープン後、最初の1年目となる平成26年度は、リニューアル前の約2倍、19万人以上のお客様にご来館いただくことができました。また、2年目となる平成27年度も、昨年度以上の20万人近いお客様をお迎えすることができました。この場をお借りして、ご来館のお客様はもちろん、ご支援いただきました地域の皆様に、厚く御礼申し上げます。
リニューアルオープン後、圏央道の開通など、神奈川県の県央に位置する相模原市は、交通インフラの拠点として大きな注目を集めている地域です。その相模原市にある当館は、関東でも数少ない淡水魚を中心とした水族館として、また地域の皆様に愛される施設として、どうあるべきかを推敲し活動を進化させていくことが３年目以降の使命と考えております。
私たちの活動の源泉は、お客様や地域の皆様に常に感謝の気持ちを抱き、多くの笑顔が弾ける施設でありたいとの想いです。
平成28年度は「感謝と感動」をスローガンに掲げて、スタッフ一同が力を合わせ、何度でも来たくなる施設にしてまいります。

相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら
館長　坂野　浩一

Contents

施設コンセプト …… 2
「ふれあい」体験 …… 3
来館者アンケート …… 4
ワークショップ …… 5
特別企画展
◇金魚玉手箱 …… 6
◇ハンター展 …… 8
◇SF昆虫展 …… 10
◇いきものタイムトラベラー …… 12
◇しっぽのツボ …… 14
常設トピックス …… 15
連携 …… 18
スタッフ紹介 …… 19
指定管理者紹介ページ

「ふれあい体験」を楽しもう！

当館では、相模川の自然や生息する生き物を知り、身近に感じることで地元への愛着を醸成し、自然環境や生物多様性への理解を促進することを目的として、そのきっかけづくりの場となるための展示手法を推進しています。そこでキーワードとなるのが、施設名称にもなっている生き物との「ふれあい」です。住環境や安全管理などが主な要因となり、近年では「生き物と身近にふれあう」機会が、学校などの教育機関においても減っています。その現状を補完し、お客様に楽しんでいただきながら本来の目的を達成するためには、「ふれあい体験」が大切な展示手法だと考えるからです。
またこの「ふれあい体験」は、生き物とのふれあいだけでなく、展示飼育スタッフをはじめとする施設スタッフや関係者、ご家族や友人、さらにはお客様同士など、多くの人と接することも含まれます。人を介することにより、いつも見慣れている生き物たちや展示装置にも新たな発見をしたり、興味を持ったりすることがよくあります。
特にお子様は生き物への興味を自発的に持つ場合ももちろんありますが、それ以上に生き物に関心を持つ保護者の方や展示飼育スタッフなど、周囲の人の熱意がきっかけとなって、いつの間にか好きになっていくことも多いのです。
お客様の中には、よくお子様だけに「ふれあい体験」への参加を促す方がいらっしゃいますが、ぜひこれからはお子様と一緒に体験して感動を共有してください。
生き物とふれあうこと、それ以上にその共有体験が、かけがえのないキッカケとなることを切に願っています。

（広報：挟間）

餌やり体験「おさかなトレーナーになろう」

餌をにぎった手を水槽に入れると、コイやウグイなどの川魚がどんどん集まってきます。水槽に手を入れることで、魚種による餌の食べ方の違いをダイレクトに感じることができ、また魚への負担も減らすことができます。

「タッチング水槽」

アメリカザリガニとふれあうことができます。最初は怖くてさわることができなかったお子様が、「3回目でちゃんと持てたぁ～」と満面の笑みで報告してくださる様子が、ふれあい体験を推進する原動力となっています。

毎日開催「ふれあいワゴン」

餌をにぎった手を水槽に入れると、コイやウグイなどの川魚がどんどん集まってきます。水槽に手を入れることで、魚種による餌の食べ方の違いをダイレクトに感じることができ、また魚への負担も減らすことができます。

「ふれあい」がキーワード　～顧客満足度調査より～

当館では年に２回、お客様から貴重なご意見を頂戴し、皆様にとって居心地のよい施設となるよう顧客満足度調査を実施しています。
昨年９月までに計３回実施し、合計で617名様にご協力いただき、非常に高い評価ならびに、貴重なご意見を多数頂戴することができました。ここでは、直近(平成27年９月)に実施した調査結果をもとに、ご来館者が当館に求めるニーズをご紹介します。

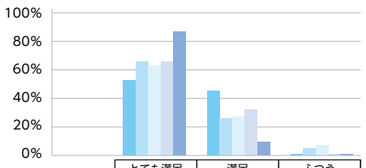
来館履歴と満足度

調査では、来館満足度を５段階評価で記述していただいており、「とても満足(5)」と「満足(4)」の合計が毎回90%以上と、おかげさまで高い評価を継続しています。
今回は“科学館らしく”もう少し掘り下げ、複数の回答結果を組み合わせて集計することでより深く傾向を探る「クロス分析」での結果をご紹介しましょう。
当館のお客様は半数以上がリピーター(複数回の来館経験があるお客様)です。では、ご来館の頻度により、満足度は変化するのでしょうか？
まず、初めてのお客様で「とても満足」と評価されたのは54.3%で、「満足」に比べてやや多い程度です。ところが、リピーターの合計では68.5%に上昇します。これは、来館して居心地が良かったから「また来たい」となるため当然の結果ですが、それがきちんと数値として裏付けられていることがわかります。

常設展示の満足度から、ニーズを読み解く！

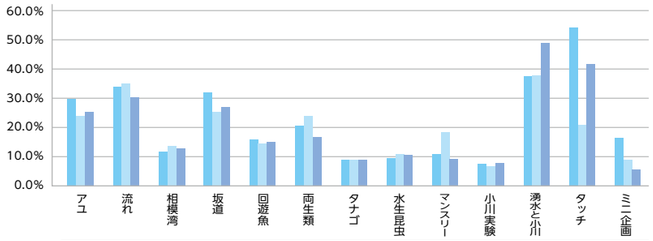
ご来館者が当館に求めるニーズは、展示毎の満足度からも読み解くことができます。その視点で結果を見ると、屋外水槽である「湧水と小川のアクアリウム」と「タッチング水槽」が突出して満足度が高く、「アユ水槽」、「流れのアクアリウム」、「坂道お魚観察水槽」がそれに続いています。これらの水槽の共通点は、『ふれあい体験』と『イベント』です。
生き物を近くで見る、という受動的な体験だけでなく、参加型の体験やイベントへのニーズの高さを、導き出すことができるのです。

【来館履歴と満足度の関係】



	とても満足	満足	ふつう
はじめて (71)	54.3%	45.7%	0.0%
来館経験者合計 (111)	68.5%	26.1%	5.4%
1～5回 (81)	65.4%	27.2%	7.4%
6～10回 (19)	68.4%	31.6%	0.0%
11回 (11)	90.9%	9.1%	0.0%

【常設の水槽展示　満足度】



	アユ	流れ	相模湾	坂道	回遊魚	両生類	タナゴ	水生昆虫	マンスリー	小川実験	湧水と小川	タッチ	ミニ企画
2014年上　期	32.8%	37.4%	12.8%	35.4%	17.9%	22.6%	9.7%	10.3%	12.3%	8.2%	42.1%	60.0%	17.9%
2014年下　期	26.7%	38.9%	15.4%	27.6%	15.8%	26.7%	9.5%	11.8%	19.9%	7.2%	41.6%	23.1%	10.0%
2015年上　期	28.4%	33.7%	14.4%	29.8%	16.8%	18.3%	10.1%	11.5%	10.6%	8.7%	53.8%	46.2%	6.3%

ほぼ

毎日、絶賛開催中！といえばものづくりワークショップ

川や海にいるいきものをモチーフに、身近な材料を利用してのコラボレーション。皆様に「面白い」「楽しい」プログラムを提供出来るよう、自身も「ワクワク」「ドキドキ」を探しながら、次はどんなのにしようかな？と手を動かしたり、考えたりする日々です。たくさんの生き物を見ていろいろなことを感じたり発見したりするように、ものづくりを通して「感じる」「発見する」時間になればいいなと思っています。ワークショップ参加中、お客様の何かを作るときのイキイキとした表情や声、オリジナリティ溢れる作品はとても刺激的！また面白い工作を作るぞ！という気持ちになります。今後も、毎月素敵なプログラムを目指して更新していきます。思い出のお土産としても是非♪皆様のご参加お待ちしております。

(体験学習：鈴木)

ものづくりワークショップ一覧（2015年３月～2016年２月）

とびだすカード
開催日：２月～３月25日㈬の平日
人　数：553名
料　金：無料

おさかなくるくる
開催日：５月～夏休み前までの平日
人　数：380名
料　金：無料

海のマグネット
開催日：10月～11月１日㈰の土日
人　数：740名
料　金：有料300円

金魚バッグ
開催日：２月28日㈯～３月15日㈰の土日
人　数：298名
料　金：有料400円

ルアーキーホルダー
開催日：５月～夏休み前までの土日祝日　人数：1,484名
料　金：有料300円

コケ玉をつくろう
開催日：10月12日
人　数：47名
料　金：有料600円

おさかなエッグをつくろう！
開催日：春休み～５月10日㈰の土日
人　数：1,569名
料　金：有料200円

昆虫ペーパークラフト
開催日：７月20日㈪～８月31日㈪の月曜日
人　数：356名
料　金：有料300円

木のコースター
開催日：11月の土日祝日
人　数：599名
料　金：有料300円

金魚ペーパークラフト
開催日：３月28日㈯、29日㈰
人　数：78名
料　金：有料300円

川とつながるてぬぐいづくり
開催日：夏休み～９月６日㈰の土日
人　数：2,705名
料　金：有料500円

水辺のオーナメント
開催日：11月～12月の平日
人　数：364名
料　金：無料

きんぎょぬりえ
開催日：４月～５月８日㈮の平日
人　数：265名
料　金：無料

ゆらゆらカスタネット
開催日：９月～10月の平日
人　数：526名
料　金：無料

クリスマスリース
開催日：12月５日㈯～25日㈰の土日祝日
人　数：285名
料　金：有料400円

金魚タオルをつくろう！
開催日：GW
人　数：714名
料　金：有料400円

ストーンアート
開催日：９月12日㈯～27日㈰の土日祝日
人　数：856名
料　金：有料200円

いきもの凧づくり
開催日：三が日、１月４日㈪～18日㈪の土日
人　数：1,085名
料　金：有料200円

特別企画展

金魚玉手箱

I can’t stop loving KINGYO

リニューアルオープン１周年記念の目玉となる、特別企画展。その責任者の任を託された時、テーマ決定に相当、悩むだろう事は想像に難くない、でしょう。しかし、私の心には一片の迷いもありませんでした。なぜならば、私がもっとも愛して止まない、金魚の魅力を皆様にご紹介する以外には、何も思いつかなかったからです。

最大の問題は、どうやって金魚の魅力をお伝えすればいいか、という方法論です。

たとえば、同じ品種でも色彩や体形は千差万別で、品種ごとにも華のある年齢が異なります。しかし、これはオーソドックスに、その品種で鑑賞のピークに近いと言われる個体をセレクトして解決しました。

また、金魚に興味がないお客様にも楽しんでいただくため、“うぐいす長者”や“浦島太郎”などの昔話をアレンジして、お客様を主人公に見立てたストーリーを展示導線にあしらいました。

意外と気がつかなかったお客様もいらっしゃったようですので、この場をお借りしてそのストーリーをご紹介させていただきます。

STORY

昔、ある金魚売の男が見知らぬ屋敷の門前で商いを始めると、出迎えた若い娘に逗留を勧められる。

入口では、白いホーロー洗面器にオーソドックスな品種の当歳魚を展示。ちょこまかと可愛らしく泳ぐ姿を浮き彫りにして、その仕草を楽しんでいただきました。

娘の留守中、男は季節ごとに彩られた部屋を巡るうち、その美しさに魅了される。

「四季の間」では、季節ごとの展装を施した床の間に、掛け軸を模した水槽を配置し、その品種のもつ魅力の解釈を図りました。

言い付けに背いて「開かずの間」を開けると、娘が金魚の精であることを打ち明けられ、男は竜宮を去ることになる。

「開かずの間」にて金魚の精に扮したジャンボオランダは、当時流通していた中で一番大きな個体（全長 40 ㎝弱）で、九州から運んでもらったものでした。体は大きくても単独飼育では臆病になりがちなので、お客様がガラス面に触れられない構造にしてありました。

手渡された「玉手箱」から見たことも無い金魚たちが、次々に現れて道しるべとなる。

「玉手箱」の水槽群では、金魚マニアの方にも、初めて見るドキドキ感を味わって頂きたく、希少、幻、最新というキーワードに拘った品種を蒐集しました。（ネコガラシなど）

「海底」から陸へと続く廊下から、見える景色を辿っていく内に、すべてが元に戻っていた。しかし、男は夢で見た美しい金魚たちに再び逢うために、金魚の生業に精を出すのであった。

金魚飼育の楽しみ方に可能性を見出す試みとして、サンゴ礁にすむ海水魚との混泳水槽「海底金魚」を展示しました。ここでは丈夫な鰭膜（ひまく）をもった品種が展示に最適であると分かるなど、形質の奥深さが実感できました。

実際の展示水槽では、金魚のヒレが動くことで水が表現でき、鱗の反射光と自体の影で背景が表現できる事もあって、余計なレイアウト材料は用いませんでした。

　準備段階。水槽をセットしてから、ただ水だけを眺めている至福のひと時…。はじめは展示生物をイメージして楽しんでいるのだと自分自身で錯覚していました。ところが今になって、実は気泡の浮上や水流、光と影を見て楽しんでいたことに気が付きました。

自宅にある 120cm 水槽にも水とエアーレーション、照明、レイアウトグッズしか（それぞれ凝っていますが）セットしていませんでした。

今後、機会に恵まれれば、滝壺や、磯サラシ場のような水面付近の厚い気泡層から、生き物が姿を見せ隠れさせるような展示水槽を御覧いただきたく思っています。まるで雲海から覗く龍の日本画みたいに…。

昔から金魚の傍らには、常にそれを生業にする方々が存在し、その魅力を追及、普及して来られました。今回の「金魚玉手箱」が無事開催に至れたのも全国の金魚関係者様のご協力による賜物です。セミナーやワークショップを通じても、展示を周りから盛り上げて頂き、金魚の魅力を存分にアピール出来たと思います。

金魚マニアの私にとっては、夢のようなひと時でした。

展示飼育員　今井啓吾

特別企画展

ハンター展

ボンボリカエルアンコウ

ハンターの心得ここにあり

普段、水槽ごしに観察をしている生き物たち。
実際、自然ではどのように暮らしているのでしょうか？
その答えを知る方法はただ１つ！“フィールド”に出かけ、自らの力で生き物を探すことです。
この特別展では、フィールド活動には興味はあるけど、何が必要で、そこに行き、どうすればいいのか？と足踏みをしている、ハンター初心者の方に向けた“入門編”としてスタートしました。

展示では、川と海での生き物観察や採集、釣りの方法、フィールドに出かけた時のマナーやルールをご紹介しました。また、期間中にはご家族連れを対象とした“川釣り体験イベント”も実施しました。
どこに生き物がいるのかを探したり、知恵を絞って仕掛けを変えたりの試行錯誤。このワクワク感は、生き物や自然との距離が近いからこそ、味わえるものです。
“一流ハンター”の卵たちが、たくさん生まれた企画展となりました。

企画者 コメント Comment

展示飼育員　田村裕子

ゴンズイ

「あ～ハンターになりたい。」幼い頃に、漠然とした憧れを抱いたことがある存在。
大人になった今、あの頃の自分は、一体何のハンターになりたかったのだろう？と思い返しましたが、謎のまま。
さて、大人になって飼育員になってみると、フィールドで生き物採集を行う機会が増えました。ある意味ハンターになったのです。新人駆け出しの頃は、勇んで川や海に出かけては、生き物を探してみたのですが…そこには何もいないのです。見渡す限り、水、水、水！嗚呼、水しかない。そう、何も知らないでふらっと行くと、生き物の影すら見えず、何も採集できません。
そして、何もいない、つまらない！という誤解とともに、もう行かない！というもったいない決別をしてしまうのです。ハンターとしてフィールドで活動するには、ルールとマナーとコツがあります！それを身に付ければ、自然は想像以上の豊かさを見せてくれるのです。
まずは、生き物について、徹底的に調べること。
目的の生き物はどんな場所に暮らし､隠れている場所はどの辺りか？エサはどの時間帯に、何を捕まえているかなどを入念に調査します。この下調べがなければ、砂浜でゴマ粒を探すようなものです。
そして忘れてはいけないのが､“自然の中にお邪魔させてもらう”という謙虚な気持ち。これは生き物を採集するハンターも、自然を観て楽しむハンターにも、共通して言えることです。生き物のすみかを壊さないよう、最大限の配慮をします。ゴミを捨てないことは基本ですが、その他にも、採集してはいけない生き物や場所など、地域によって様々なルールがあります。これは生き物の暮らしや人の安全を守るための、大切なルールです。
生き物たちが、自然の中でたくましく生きる姿と出会えた時の喜びは、発見と驚き、高揚感で満ち溢れます。
この経験を一人でも多くの方に感じていただけるように、これからもハンター育成講座を細々でも続けていきたいですね。
目指せ！清く正しいハンター★

釣りは一生の趣味！

生き物との知恵比べであり、自分との戦い、家族・友との語らいの時である！
と大口をたたいて実施した、ご家族連れが対象の“相模川での川釣り体験ツアー”★
参加者の方は、釣り未経験者の方もいれば、マイ釣竿を持っているような猛者までいらっしゃいました。
釣り糸が絡まった～！釣り針から魚を外せな～い！という声に、スタッフやお父様方が右往左往しながらも、ヌマチチブなどを釣って楽しんでいただけました。
目の前の大きな川に、本当に魚がいた！釣れた！！この感覚を味わえると、
相模川にも、魚たちにも、以前より少し愛着と親近感を抱いてもらえたかなと思います。
ちなみに私個人の話ですが、今回のツアー直前に、釣りガールデビューをしました。
が！どうやら私には忍耐力が足りないらしく、釣竿を持ってウロウロしてばかりでした。
よっぽど子どもたちの方が、集中していましたね。

特別企画展

SF 昆虫展

ディディエールシカクワガタ

かっこいいだけじゃない！？

地球上でもっとも繁栄した生き物は昆虫であり、その種類数は100万種を超えて今なお一年に3000種ほどの新種が見つかり続けています。人を含めた哺乳類が約4500種なので、いかに地球が“昆虫の惑星”であるかがわかります。
昆虫たちは厳しい生存競争を生き抜くために、さまざまな特殊能力を身につけてきました。そのへんの道端のコケの中にもすみ、極低温や高温・真空状態でも死ぬことのない最強生物“クマムシ”（クマムシは昆虫ではありませんが…）や、刺されているはずなのになぜか痛くない“蚊”など、身近にいる昆虫にもその能力の一端を見ることが出来ます。人間の世界にその技術を応用した“バイオミメティクス（生物模倣）”なるものも一般的に認知されるようになってきました。
SF昆虫展では、かっこいいだけではないS（すごく）F（ふしぎ）な昆虫たちの世界を紹介しました。

カブトムシ

企画者 コメント Comment

展示飼育員　竹本淳史

エレファスゾウカブト

夏はやっぱり昆虫でしょう。だって、かっこいい（かわいい）じゃないですか。昔からカブトムシより断然クワガタ派だった私ですが、昨年まじまじとヘラクレスオオカブトの顔を見て、こいつもなかなかイケメンだなぁ（ツノがあるのは♂ですから）なんて思っていました。
でも、実は昆虫ってすごい能力をもっているものがたくさんいるんです。知ってましたか？カラカラに乾いた状態から、水をかけると復活して動きだす虫がいること。光る糸を吐くカイコがいること。紫外線を使ってオスメスを見分ける蝶がいること…
そんな昆虫のすごい能力が、人間の生活にも生かされているんです。血を吸われていても痛みを感じない蚊の針を応用して、痛くない注射針が開発されていたり。これは注射が嫌いな私にとってはとってもうれしい話ですね。
SF昆虫展では、部屋の中に“昆虫生産研究室”“擬態研究室”“不死身研究室”“光と闇の研究室”“所長のツノコレクション”のブースを作って、それぞれのテーマに沿ったS（すごく）F（ふしぎ）な昆虫を紹介しました。
その中でも一番見て欲しかったのは、相模原市にも縁の深い“カイコ”が、遺伝子技術の応用によって光る糸を吐き作りだした、光るカイコのマユ（実物）でした。国立研究開発法人農業生物資源研究所の協力のもと、展示が実現しました。その光は、とても幻想的でした。
夏はやっぱり昆虫でしょう、だって、かっこいい（かわいい）し、不思議じゃないですか。

タンザニアオオヤスデ

ハナカマキリ

※昆虫ではありませんが

トピックス

昆虫ペーパークラフトをつくろう	7/20・27 8/3・10・17・31 に実施
夏休み昆虫観察ツアー	7/24・30・8/7 に実施
キッズサイエンスカフェ	7/25・26・8/24 に実施
夏休み実験教室	7/28・8/18・25 に実施
チリモンを探せ	8/6・20・27 に実施
クワガタ忍者ただいま参上！	8/24 に実施
クマムシ博士になろう！	8/30 に実施
昆虫ドキドキタッチング	期間中毎日開催

特別企画展

いきもの タイムトラベラー

エリマキトカゲ

タイムトラベラー～なつかしや～

私たちの社会では様々なものが流行します。いきものたちの中にも、アニメやCMに登場したことなどでブームを巻き起こしたものがたくさんいます。2本足で走る姿で強烈なインパクトを与えたエリマキトカゲや、ピンク色の体が特徴的なメキシコサラマンダーなど、それまであまり知られていなかったいきものたちも注目を集めました。なかにはペットとして飼われ、私たちにとってかけがえのない存在となったいきものもいます。

しかし、様々ないきものたちが流行った一方で、乱獲や飼育放棄、それによる外来種問題などの“ブームの影”も生まれました。

いきものタイムトラベラー展では、いきものと私たちとの関わりあいを考えるきっかけになればとの思いもこめて、1960年代から現在に至るまでにブームを起こしたいきものたちを、その時代にタイムスリップしたような会場の中でご紹介しました。

企画者 コメント Comment

展示飼育員
亀ヶ谷 千尋

今、テレビのスイッチをつけると、そこでは様々ないきものたちの動いている姿を見ることができます。パソコンに文字を入力すると、いきものたちの様々な情報を得ることができます。

でも少し前までは、そういったいきものたちは図鑑の中などでしか見ることができませんでした。だから、一度CMやアニメなどで取り上げられると一大ブームとなったものです。

私自身も子どもの頃、とある漫画に出てきたいきものに興味を引かれ、動物園や博物館に見に行ったものです。

さて、“いきものタイムトラベラー展”はと言いますと、さすがはブームを起こしたいきものたち。オールスターの会場はいつもお客様が絶えませんでした。会場作りにも力を入れ、それぞれのいきものが流行った時代の街並みや風景などを再現したので、“昔のテレビはこんなだったね”、“これプリクラの機械だ～”といった声が聞こえると、うれしくなりました。

今回の企画展では、流行ったいきものたちに再注目するだけでなく、ブームとなったことで起きた問題も取り上げました。“欲しい・飼いたい”というニーズにこたえるために起こった乱獲、そのいきものについてあまりよく知らずに飼ったために起きた飼育放棄、飼育放棄された外国産のいきものが野外で繁殖したために起こった外来種問題。これらの問題は、私たち飼育係が常に考えていかなくてはいけない問題です。

いきものを飼うこと、いきものと共に生きることはすばらしいことです。そのことは、飼育係である私たちが一番よく分かっています。だからこそ、いきものについて正しく皆さんに伝えなくては、と身の引き締まる思いも感じた企画展でした。

グリーンイグアナ

トピックス

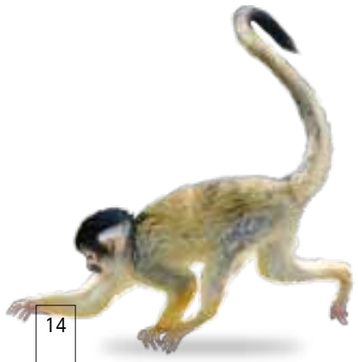
漁港探検ツアー	11/1(日)
モルモットのだっこ	9/19(土)～11/7(土)までの毎週土曜日
苔玉作り	9/21(月･祝)・22(火･祝)・23(水･祝)

特別企画展

しっぽのツボ

コモンリスザル

しっぽのヒミツ『ビビッ!! 』と紹介



「どうして自分はしっぽがないんだろう？」こんなギモン、持ったことはありませんか？とかくジコチュー（自己中心的）になりがちな私たち人間は、自分にないモノに対して不自然さを感じるかもしれませんが、実はいろんな生き物がいる中で、その過半数がしっぽを持っているといっても過言ではありません。少し広い視野を持ってみると地球上の生物界では、しっぽを持つ生き物の方がスタンダードなんですね。

さてこの特別企画展では、しっぽを持ついろいろな生き物とその働きを中心にご紹介しました。そのきっかけは、ご来館者のおひとりから SNS に投稿していただいたアドバイス。私たちスタッフも、いつも生き物と接しているからこそ気がつかない視点があるという、とても大切なことを教えていただいた、そんな特別企画展なのです。

企画者 コメント Comment

広報宣伝
挾間 雅行

特別企画展の内容を考えるとき、ほとんどの場合“裏テーマ”をあわせて設定します。今回は、いろいろなしっぽのある生き物やその働きをご紹介するというのが“表テーマ”。もうひとつの“裏テーマ”は、進化のおもしろさにふれていただくこと、です。しっぽは、もともと魚の尾びれから進化して、体の構造変化や生活環境の多様化などの影響で、形や機能も変化してきたと考えられています。たとえば、同じ霊長類のサルであるオナガザル科のサルでも、主に木の上で暮らすクモザルの仲間はしっぽで手足のように枝にぶら下がることができますが、ニホンザルのように地上で暮らしやすいようにしっぽが短くなってしまったサルもいます。これを簡単に言葉で説明すると「必要がなくなったから」という、とてもシンプルな理由になってしまいますが、それが長い年月をかけて遺伝子レベルで変化した結果だと想像してみると、とても興味深いではありませんか！

今回は、その裏テーマを感じていただくために、展示アイテムとしても多方面の皆様にご協力を仰ぎました。ソニー株式会社の科学館であるソニー・エクスプローラサイエンスさんからは、5億年前のカンブリア紀に生息していた古代生物をAR技術で体験できるアプリケーションを、東京工業大学さんからは魚類が陸上に上がる過程の生物として有名なシーラカンスの実物大レプリカを、海洋博公園さんと株式会社ブリヂストンさんからは、進化の過程で水中での生活にもどったイルカの尾びれの動きと大きさを実感していただくため、イルカの人工尾びれのレプリカと写真をお借りしました。どれも大変貴重なもので、生体展示とともにお客様には大変ご好評を博しました。ただひとつ企画者として心残りなのは、国の特別天然記念物にも指定されているオナガドリの剥製の展示を、輸送の関係で断念したこと。画像をお借りすることで何とか形にしましたが、四国出身の私としてはぜひ、皆様にご覧いただきたかったんです。その際、多大なご協力を頂戴しました高知県南国市の教育委員会さん、そして上記の皆様、ご来館いただきました皆々様、本当にありがとうございました。

ボールニシキヘビ
（アルビノ）

シーラカンス（レプリカ）

レオパードピライーバ

ふれあい
Topics01
ミニトーク水槽

ミナミトビハゼ

モクズショイ

生き物には、知られざるヒミツがたくさんある！もっと知ってほしい、生き物のすてきな能力！そんな思いでスタートしたのが“ミニトーク水槽”です。約 1.5 ヶ月ごとに、淡水・海水の生き物たちの能力を、実験形式で紹介しています。
記念すべき第一弾は、“キンギョの色を見分ける能力を確かめる”ミッションでした。“赤い玉”や“黄色い玉”それぞれ決めた色をキンギョたちに覚えてもらい、複数の玉の中から指定した色の玉だけを口でつつけるか？というものです。いざ実験してみると品種によって能力の差が見受けられ、いったい何色まで見分けることが出来るのかと興味深い結果となりました。
今では生き物のクイズコーナーや実験のお手伝いさんを募集する時など、ワイワイと賑わうイベントとなりました。
これからもすこ～しディープで面白い実験ができるように、生き物たちと相談をしていきますね。
（展示飼育：田村）

- 4～6月 【ギョギョッ！キンギョの色分け実験】 生物種：コメット、リュウキン
- 6～7月 【ウニ・ヒトデ・ナマコの意外な関係】 生物種：ムラサキウニ、イトマキヒトデ、マナマコ
- 7～8月 【ぴょ～ん！ジャンプのヒミツ】 生物種：ミナミトビハゼ
- 9～10月 【オシャレに変身？】 生物種：モクズショイ
- 11月 【エイのヒミツを大調査！】 生物種：アカエイ
- 12月 【ビリビリ！デンキウナギのツリー点灯】 生物種：デンキウナギ

ふれあい
Topics02
マンスリー水槽

オカヤドカリ

セマダラヤドクガエル

2 年目のマンスリー水槽は、ほぼ水なし水槽でした。
どういう事かと言うと、魚以外の生物にチャレンジした年だったのです！常設展示は難しいけど、マンスリー水槽で期間限定なら展示できる！そんな隠れたスターたちを厳選し、インドホシガメやヤドクガエルをはじめ、さらに水槽の中に小型の水槽を入れるという小ワザを思いつき、今まで展示を躊躇していた小指の爪サイズのエビやカニの仲間も展示をしました。今年度も相変わらず、飼育員の意向を存分に解き放った自由な水槽でした。当初は毎月の行事やイベントにならった生き物を展示していたのですが、最近はダジャレやこじつけ感も出てきました。平成 28 年の 1 月からは毎月展示の担当者が変わり、それぞれのテイストとこだわりを見せています。
今月は誰が担当したのかな～？と想像しながら観てみるのも面白いですよ♪もっと観察しやすく、もっと魅力的に生物をご紹介できるように精進を続けますね。　（展示飼育：田村）

- 1月 【的祭に名射手あらわる！？】 生物種：テッポウウオ
- 2月 【かけひき上手なトビハゼ】 生物種：ミナミトビハゼ
- 3月 【魚たちのひなまつり】 生物種：バルーンモーリー
- 4月 【春うらら ～相模川でピクニック～】 生物種：バリリウス・ブルケルス、レッドベリーデイズ
- 5月 【のんびり大きくなあれ】 生物種：インドホシガメ
- 6月 【猛毒ガエルは怖くない？】 生物種：テリビリスフキヤガエル、セマダラヤドクガエル
- 7月 【満天の星空】 生物種：アフリカンランプアイ
- 8月 【サマーバケーション】 生物種：オカヤドカリ
- 9月 【芸術の秋 ～美しき尾ビレの祭典～】 生物種：ハーフムーン、ダブルテール、クラウンテール
- 10月 【こわ～い？バンパイヤクラブ】 生物種：バンパイヤクラブ
- 11月 【水中の紅葉を楽しもう】 生物種：レッドムーンプラティ、サンセットプラティ
- 12月 【小さな世界のクリスマス】 生物種：レッドチェリーシュリンプ

ふれあい
Topics03
小川の実験観察テーブル

オタマジャクシ

2015年度の小川の実験観察テーブルは、「身近な生き物でも、知らないことがいっぱいある」ことを知ってもらいたい、ということを自分のテーマとして展示作りをしました。
来館された方々の反応が一番大きかったと感じたのは「カタツムリ」でした。水中にすむ巻貝と陸上にすむ巻貝の違いをテーマにした展示で、カタツムリは全部で 9 種類展示しました。展示したカタツムリの中で一番大きなものは、殻の直径が 5cm あるヒダリマキマイマイで、水槽のそばを通ると「こんな大きなカタツムリ初めて見た！」「最近大きなカタツムリを見なくなったねぇ」といった声を聞くことができました。
担当として一番苦労したのは「アメンボ」です。アメンボの水槽の隣に、表面張力を利用した針金アメンボの模型を水に浮かべたのですが、時間が経つと沈んでしまうなど、模型を浮かんだ状態で維持するのが意外に大変‥。アメンボのすごさを身をもって知りました。　（展示飼育：亀ケ谷）

- 1～4月 『イワナの成長を観察しよう！』 生物種：イワナ
- 5月 『アユカケの石化け実験』 生物種：アユカケ、カワアナゴ
- 6・7月 『オタマジャクシを観察しよう！』 生物種：アマガエル、モリアオガエル
- 8月 『アメンボはなぜうかぶ？』 生物種：アメンボ
- 9月 『カタツムリを観察しよう』 生物種：ミスジマイマイ、ヒダリマキマイマイ、オカモノアラガイ、オナジマイマイ、ヒメタニシ、カワニナ、モノアラガイ
- 10・11月 『エビとカニはどうちがう？』 生物種：ヒラテテナガエビ、ベンケイガニ
- 12・1月 『ドジョウはおならをする？』 生物種：ドジョウ、シマドジョウ、ホトケドジョウ、アカザ

アメンボ

ふれあい
Topics04
海の小さないきもの水槽

ゼブラウツボとシロボシアカモエビ

ダンゴウオ、イイダコ、カクレクマノミ、チンアナゴ…。海の中には小さくて、おもしろいいきものがたくさん暮らしています。
館内の海水水槽では、先にあげた小さないきものたちは隠れてしまったり他の魚に食べられてしまうため、これまで展示することが出来ませんでした。そこで、相模湾水槽の隣のスペースに海の小さないきものたちのためだけの水槽を作ってしまいました。
飼育員がぜひ見てもらいたい“海の小さないきもの”たち。皆様もこの水槽を見て、小さな体の大きな魅力に気づいてくださいね。　（展示飼育：竹本）

チンアナゴ

【これまで展示した海の小さないきもの】

1・2月 冬の使者　～ダンゴウオ～
3月 共生関係
～ゼブラウツボと
シロボシアカモエビ～
4月 共生関係
～イソギンチャクとカクレクマノミ～
5月 魚たちの大人と子供
～ロクセンヤッコとイロブダイ～
6月 海の中にも雨がふる　～アメフラシ～
7・8月 砂の中からこんにちは　～チンアナゴ～
9月 食欲の秋　～カエルアンコウ～
10・11月 お父さんからうまれる
～タツノオトシゴ～
12月 海の忍者　～イイダコ～

ミニ企画展示
通年企画 相模川を辿る

フジマリモ

相模川を知ること。これがこの一年の私の目標でした。
そう思って、最初に向かったのは水源である山中湖。「えっ !? 山中湖ってマリモがいるの!!?」知りませんでした。次に向かったのは湧水の里、忍野八海。「えっ !? 富士山に降った雨が湧水になるまで20年もかかるの!!?」知りませんでした。さらに山梨県で桂川と呼ばれることが「カツラの木から由来しているんだ…（諸説あります）」知りませんでした。
そんな新しい発見がいっぱい（私にとって）の相模川のことを紹介したくて、1月から12月までひと月ごとにテーマを変えて、山中湖から河口までを辿り、そこで見つけたことをミニ企画展示コーナーでひっそりと紹介していました。
一年かけて辿ってきた相模川、今思うことは「まだまだ知らないことがたくさんありそうだ！」旅はまだまだ終わりそうにありません。　（展示飼育：竹本）

相模川を辿る

1月　水源　～山中湖～
2月　湧水の里　～忍野八海～
3月　桂川の流れ
4月　相模湖にくらす魚たち
5月　支流　～道志川～
6月　相模川とヤツボ
7月　相模川ふれあい科学館周辺
8月　もうひとつの水源　～丹沢～
9月　八景の棚と河岸段丘
10月　三川合流点
11月　相模大堰　～魚道と生き物～
12月　河口から相模湾へ

連携

営業：押田聖彦

花苗の植え付け

近隣の友愛保育園の園児さんたちと当館の敷地内にある、さかな形花壇に「花苗の植え付け」をしました。5月にはポーチュラカ、ケイトウ、11月にはヴィオラ、ハボタン、シロタエギクを植えました。花の名前を覚えながら一生懸命植えている姿はとてもかわいらしかったです。

企業タイアップ

当館では企業様のご要望に応じて様々なイベントを実施しています。人数、天候、季節を考えながら、参加されるお客様に喜んで頂けるように工夫しています。

企業タイアップ 『親子で釣りをはじめよう！』

J:COM相模原・大和局主催にて、J:COM加入者を対象に相模川高田橋付近での「釣り体験イベント」(6/20、27)を実施しました。参加される方の多くが釣り初体験者で、お子様はもちろん、保護者の方々も熱心に説明に耳を傾けていました。はじめは釣れても魚を触ることが出来ず、おどおどしていましたが、慣れると釣れた魚を持ちながら写真撮影をする姿もみられました。魚が釣れるたびに、悲鳴にも近い歓声をあげて喜んでいました。

企業タイアップ 『昆虫観察ツアー』

当館周辺にて「昆虫観察」(7/30)を実施しました。あじさいメイツ(公益財団法人相模原市勤労者福祉サービスセンター)の加入者を対象に実施し、カブトムシやカミキリムシ、バッタ、カマキリ、セミ等の昆虫を中心に観察する事が出来ました。なかでも脱皮途中のセミの幼虫、脱皮したばかりのセミの成虫を観たお客様からは、「はじめて脱皮の様子を観ることが出来て、貴重な体験が出来ました」と感想を頂きました。

企業タイアップ 『いま、自然を考える 相模川の生き物の不思議発見！』

JAF(一般社団法人日本自動車連盟)の加入者を対象に当館施設ガイドやワークショップを実施しました(11/28)。飼育スタッフの解説を聴きながら館内を見学する事で、相模川の生き物について詳しく知る事が出来たと共に、生き物を石に描くストーンアートを実施した事でお子様にも楽しく学習して頂きました。

企業タイアップ 『相模川フィールド体験』

相模原麻溝公園ふれあい動物広場のこども動物クラブのお子様を対象に『相模川フィールド体験』(10/10)を実施しました。施設で生き物の解説を行った後、相模川へ歩いて行く途中では、サワガニの観察、烏山用水の鯉の解説を行いました。10月の相模川は水が冷たく、キャーキャーと声を上げながら生き物の観察を行いました。水棲昆虫やヌマチチブやエビの仲間等を観察する事が出来ました。

出張水槽

当館では出張水槽展示を行っています。「ふれあいミニ水族館」と称して、生き物と直接ふれあえるタッチングコーナーや館内にて定期的に実施している特別企画展から選定した生き物などを観察出来る水槽展示をしています。

出張水槽 『川と湖の魚フェア』(内水面まつり)

相模川河川敷にて開催された「川と湖の魚フェア」(5/3～5/4)に出張させて頂きました。アメリカザリガニ、アカハライモリ、クサガメ、モクズガニを展示しました。

出張水槽 『住宅展示公園』

相模原(4/26)、町田(4/29)、厚木(8/9)の住宅展示公園に出展させて頂きました。
生き物だけでなく、ワークショップも実施しました。家を観に来たファミリーが足をとめて、楽しんでいかれました。

出張水槽 『相模原市民若葉まつり』

市役所さくら通りで開催された「相模原市民若葉まつり」(5/9)に出展させて頂きました。多くのお客様が賑わう中、特別企画展示、ワークショップの告知をしました。

出張水槽 『やまとおもしろ科学館2015』

「やまとおもしろ科学館2015」(8/8)ではザリガニ、カブトムシのタッチングコーナー、特別企画展示「SF昆虫展」の生き物を展示しました。夏休み期間中でしたので、カブトムシ、クワガタムシの人気が高く、子どもたちは興奮しながら観ていました。また、カイコの人気が高く、「かわいい」という声が女性から多くあがっていました。最近では学校で飼育する機会も無いということで、親御さんがお子様に飼育方法を説明していたのが印象的でした。

相模大野中央公園で開催された「S-1スタディ エコまなびレッジ」(9/12)に出展させて頂きました。会場には約25,000人のお客様が来場され、ブースも多くの方々の笑顔と学び、遊びの場として賑わいました。

出張水槽 サイエンスフェスティバル大和大会 『冬のおもしろ科学館』

「冬のおもしろ科学館」(12/5)では特別企画展示「しっぽのツボ」に展示する白色のボールニシキヘビを展示しました。多くのお客様が「白いヘビは縁起が良さそう」と珍しそうに眺めていました。

New staff introduction
新任スタッフ紹介

波多野　順
(展示飼育部　部長)

中部地方の出身です。登山が趣味ですので、山に登って関東の在来種とたくさんふれあうことが楽しみです。

亀ヶ谷　千尋
(展示飼育部)

私は植物も大好きで、自宅の部屋はほぼジャングル状態になっています。でも、とっても癒されるんですよ～！

鈴木　友絵
(体験学習)

学生時代は油絵を描いていました。マイペースな性格ですので、失敗してもどうか笑って許してくださいね。

松原　加木
(総　務)

出身は東京ですが、宮崎県に住んでいました。夢は、館内で単独のゴスペルコンサートを開催することです。

現在のスタッフ内訳　展示飼育部5名／営業管理部5名
施設管理部2名／受付2名

【運営会社のご紹介】

平成26年1月より、相模原市から指定管理業務を受諾させていただいております株式会社江ノ島マリンコーポレーションは、下記の水族館運営業務にも従事しています。

新江ノ島水族館

相模湾に面し、右手に富士山、左手に景勝地・江の島が控える絶好のロケーションに立地する「新江ノ島水族館」は、"わくわくドキドキ冒険水族館"をコンセプトにしています。

新江ノ島水族館
ENOSHIMA AQUARIUM
http://enosui.com/

世界淡水魚園水族館　アクア・トトぎふ

日本や世界の淡水域に生息する生物をご紹介している「世界淡水魚園水族館　アクア・トトぎふ」は、岐阜県によって整備され環境学習体験を実践する場として親しまれています。

世界淡水魚園水族館
アクア・トトぎふ
http://aquatotto.com/

発　行：相模川ふれあい科学館　アクアリウムさがみはら
発行日：平成28年3月
印　刷：ダイヨー印刷株式会社

■アクセス　Access

電車バスご利用　JR横浜線　相模原駅南口より　神奈川中央交通バス
「水郷田名」行き　「ふれあい科学館前」下車　徒歩0分

車をご利用

国道16号線	相模原駅入口	上溝バイパス	上溝	県道54号	相模川ふれあい科学館
圏央道 相模原愛川IC		国道129号	上溝バイパス	県道54号	

■入館料金（税込）平成28年4月1日に料金改定を実施しました。

区　分	個　人	年間パスポート	団体（20名以上）
大人（高校生以上）	390円	1,170円	310円
小人（小・中学生）	130円	390円	100円
65歳以上※	190円	570円	150円
幼児（小学校就学前） 障害者と同伴者1名※ ひとり親家族等※	無料	無料	無料

※については、入館時に証明できる各種証明書のご提示が必要です。
◆年間パスポートの有効期限は、発行日から1年間となります。
　申請時に写真を撮影します。

お得な年間パスポート

年間パスポートなら3回分の料金で
1年間何度でもご入場いただけます。

■開館時間　9：30～16：30
　イベント開催等により営業時間変更の場合あり

■休 館 日　月曜日（月曜日が祝日等の場合は開館）
　ただし、春休み・夏休み等の長期休暇期間は毎日開館

【指定管理者】株式会社江ノ島マリンコーポレーション
【第一種動物取扱業の実施に係る掲示】氏名又は名称：相模原市　事業所の名称：相模原市立相模川ふれあい科学館　事業所の所在地：神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1　動物取扱業の種別：展示　動物取扱業の登録番号：生衛　第204－00012号　登録年月日：平成26年3月10日　登録の有効期限の末日：平成31年3月9日　動物取扱責任者の氏名：竹本　淳史

相模川ふれあい科学館
アクアリウム さがみはら

〒252-0246神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1
TEL.042-762-2110　FAX.042-761-2665
http://sagamigawa-fureai.com/

相模川ふれあい科学館　検索